



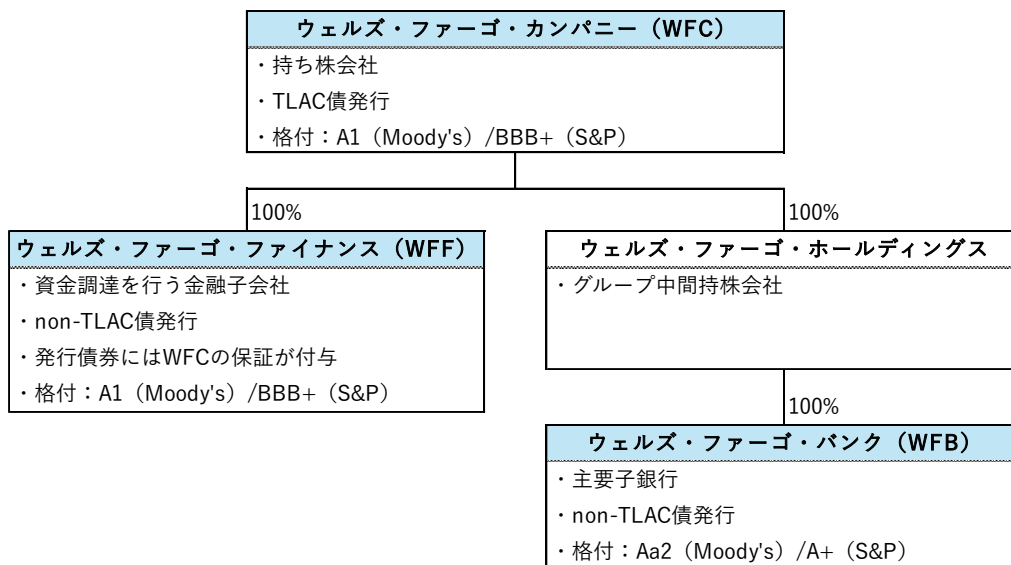
ウェルズ・ファーゴ・グループの概要

2025年9月8日

1. ウェルズ・ファーゴ・グループの概要

ウェルズ・ファーゴ・カンパニー (Wells Fargo & Company (WFC)) は米国4大商業銀行の一角であり、総資産米国第4位の銀行持株会社である。規制当局である連邦準備理事会 (FRB) による規制区分は最も厳格な規制が適用されるカテゴリー I に位置付けられており、グローバルなシステム上重要な銀行 (G-SIBs) に該当する。カリフォルニア州サンフランシスコに本社を構え、米国を中心に個人・中小企業向けに銀行業務をはじめとした総合的な金融サービスを提供しているほか、世界30か国以上で法人向け金融サービスを提供している。同グループの債券発行は、持株会社である WFC が TLAC 債を発行し、中核子銀行であるウェルズ・ファーゴ・バンク (Wells Fargo Bank, N.A. (WFB)) と資金調達を行う金融子会社であるウェルズ・ファーゴ・ファイナンス (Wells Fargo Finance, LLC (WFF)) が non-TLAC 債を発行している。なお、WFF が発行する債券には WFC の保証が付与される (図表1参照)。

(図表1)



2. 業績および財務の状況について

WFC の業績および財務の状況（グループ連結ベース）は（図表 2）のとおり。2025 年度第 2 四半期は、FRB の利下げに伴う資産利回りの低下により純金利収入が減少（前年同期比▲1.8%）したほか、営業費用がやや増加（同+0.6%）したものの、非金利収入の増加（同+4.0%）に加え、貸倒引当金繰入が減少（▲18.7%）したことなどから、税引前利益は 6,438 百万ドル（同+4.5%）と増益となった。

また、経営指標について、普通株式等 Tier1 比率は 11.1%（同+0.1pt）と規制上求められる水準（8.5%）に対し十分なバッファを有しているほか、流動性カバレッジ比率も 121.0%（同▲3.0pt）と十分な手元流動性を確保している。加えて、不良債権比率についても 0.8%（同▲0.1pt）と低位で推移している。

（図表 2）

（単位：百万米ドル）

決算期	FY 2022	FY 2023	FY 2024	前期比	Q2 2024	Q2 2025	前期比
純収入	74,368	82,597	82,296	▲0.4%	20,689	20,822	0.6%
金利収入	44,950	52,375	47,676	▲9.0%	11,923	11,708	▲1.8%
非金利収入	29,418	30,222	34,620	14.6%	8,766	9,114	4.0%
貸倒引当金繰入	1,534	5,399	4,334	▲19.7%	1,236	1,005	▲18.7%
営業費用	57,205	55,562	54,598	▲1.7%	13,293	13,379	0.6%
税引前損益	15,629	21,636	23,364	8.0%	6,160	6,438	4.5%
当期損益	13,677	19,142	19,722	3.0%	4,910	5,494	11.9%
総資産	1,881,020	1,932,468	1,929,845	▲0.1%	1,940,073	1,981,269	2.1%
貸出金	962,975	941,618	919,005	▲2.4%	925,219	933,148	0.9%
総負債	1,698,807	1,745,025	1,748,779	0.2%	1,761,925	1,798,315	2.1%
預金	1,383,985	1,358,173	1,371,804	1.0%	1,365,894	1,340,703	▲1.8%
自己資本額	133,527	140,783	134,588	▲4.4%	134,249	136,400	1.6%
リスクアセット	1,259,889	1,231,668	1,216,146	▲1.3%	1,219,533	1,225,863	0.5%
普通株式等Tier1比率	10.6%	11.4%	11.1%	▲0.4pt	11.0%	11.1%	0.1pt
流動性カバレッジ比率	123.0%	125.0%	125.0%	0.0pt	124.0%	121.0%	▲3.0pt
TLAC比率	23.3%	25.1%	24.8%	▲0.2pt	24.8%	24.4%	▲0.4pt
不良債権比率	0.6%	0.9%	0.8%	▲0.0pt	0.9%	0.8%	▲0.1pt

（出所：公表資料より当社作成）

なお、WFB の業績および財務状況は（図表 3）のとおり。同行はグループの中核子銀行であり、純収入および総資産はグループ全体の約 9 割を占める。伝統的な商業銀行業務を中心としたビジネスモデルを有しており、每期安定的に利益計上している。米国内を中心に預金残高も安定的に推移しているほか、普通株式等 Tier1 比率も 13.1%（2024 年末時点）と十分な資本バッファも有している。

(図表 3)

(単位: 百万米ドル)

決算期	FY 2020	FY 2021	FY 2022	FY 2023	FY 2024	前期比
純収入	62,873	62,109	67,056	76,942	75,247	▲2.2%
金利収入	40,286	36,036	45,445	54,993	52,319	▲4.9%
非金利収入	22,587	26,073	21,611	21,949	22,928	4.5%
貸倒引当金繰入	13,023	▲4,051	1,545	5,447	4,383	▲19.5%
営業費用	48,264	43,737	45,530	45,391	42,891	▲5.5%
税引前損益	1,586	22,423	19,981	26,104	27,973	7.2%
当期損益	3,455	17,577	16,050	21,994	22,633	2.9%
総資産	1,767,808	1,779,504	1,717,531	1,733,244	1,705,538	▲1.6%
貸出金	855,301	850,942	913,647	901,205	876,866	▲2.7%
総負債	1,596,880	1,608,362	1,556,061	1,570,242	1,539,310	▲2.0%
預金	1,479,499	1,524,535	1,420,842	1,416,886	1,435,051	1.3%
(米国内)	1,443,370	1,504,343	1,399,274	1,392,417	1,416,882	1.8%
(米国外)	36,129	20,192	21,568	24,469	18,169	▲25.7%
自己資本額	150,168	149,318	140,644	142,108	145,651	2.5%
普通株式等Tier1比率	13.8%	13.1%	12.0%	12.5%	13.1%	0.6pt

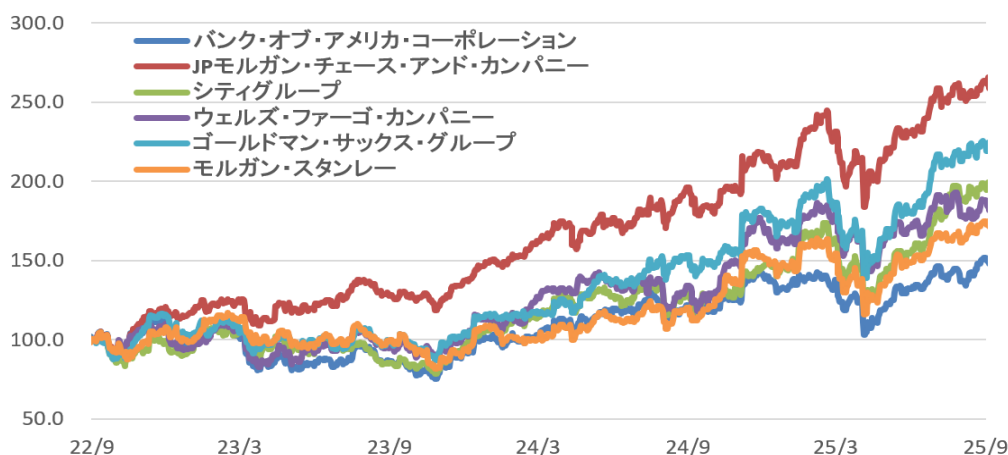
(出所: 公表資料より当社作成)

3. 今後の見通し等について

上述のとおり、同グループは伝統的な商業銀行のビジネスモデルに基づく安定した収益基盤を有しており、十分な損失吸収バッファも有している。2016年9月に発覚した不正営業問題に端を発し、2018年2月よりFRBに課せられていた資産上限措置も2025年6月に解除されており、預金残高およびトレーディング資産の増加等に伴う利益の押し上げも期待されるが、今後の動向を注視したい。なお、(図表4)のとおり、株式市場の評価においても、米国主要他行対比で遜色ない水準となっている。

(図表 4)

米国主要行株価推移(2022年9月=100)



(出所: Bloombergより当社作成)

以上

本レポートは、信金インターナショナル(以下、「信金インター」と称します。)が、信金インターの顧客である貴殿に対する情報提供のみを目的として作成したものです。本レポートに含まれる情報は、作成時点の公開情報ならびに信金インターが信頼性が高いと考える情報源に基づいていますが、信金インターはその正確性または完全性について何ら表明または保証するものではありません。取引の経済上、法律上、税務上等のリスクについては、ご自身で判断ください。

本レポート中の見解は信金インターの見解であり、変更される可能性があります。信金インターは、本レポート中の見解または情報を更新する義務を負いません。信金インターおよびその関係会社ならびに各々の役員・従業員は、本レポートまたはその内容を使用したことにより直接的あるいは間接的に生じた損失について、いかなる責任も負いません。